

緒言

近時著しく體育といふ事に目醒めて來て、一般社會にも、局にあたる人々の考への中にも事實として表れて來た事は何と申しても悦ばしい事である。

體育の行はるる場所から見たならば、一般社會の體育が近來長足の進歩を遂げたといはねばなるまい、而して體育を重要視する聲と共に實行するものも多くなつた事實を伺ふことが出来る。

體育に對する材料から考へて見るならば何といふても競技材料が重視されてゐてその實行もまた色々の意味に於て發達しつゝあると見らるるのである。

この社會體育の發達と競技の實行とが學校體育の實際と折衝しつゝ歩み寄つてゐることは實に喜ばしいことであるけれども、一方競技萬能といふ不健全な分子が學校體育の近時に於ける傾向を産み、全體育の健全なる發達を障害しつゝその進歩を遅延せしめてゐることは争ふべからざる事實であつて衷心より憂ふるものである。

この學校體育の振興に大きな原動力となるものは先づ學校に於ける體操科の指導に萬全を期することである。然るに教育の思想や、體育材料に對する傾向の爲めに動かされ不振の原因を生むことは、

學校に於ける體操科の教授が、一般體育の基礎をなすものであり、根底を培養するものであるといふ確信のもとにて指導者それ自身が立つてゐないためである事と、體育材料の普遍的な實施を計るべき指導の實際が特殊化されてゐるといふ事と。體育材料の練習目標が明確でないためであると信ずる。

やれ丁抹の體操、やれ獨逸の、瑞典の體操とか、また緊張弛緩の運動とかいふて、材料そのものの性質や指導の方法等に眩惑され、言葉そのものに動いたり運動形式を珍らしがつたりしてゐるやうであるが、その根本である運動材料の本質を考究しその教養の目標を闡明せなければならぬものである。

先づこれらに對する指導者の態度は現在實施の體育材料の性質、これが目標を明かにし、長短補充の心から世界各國の我れに優れてゐると認むるところの材料は、その國の如何を問はず、主義の如何流派の如何を問はず採擇し我が物とするといふ立場から研究實施を計るべきであると信ずるのである。

次に眞剣なる熟慮と絶えざる研究とを要すべきものは體操科の教授である。多數生徒を普遍的に指導し實行にまで習慣づけるといふことが最も重要なことであつて興味ある指導や、自覺ある勵行を得さしめるためには完結した、しかも徹底した深味のある指導が生れなければならぬ筈である。何れの地方、何れの學校に行つて教授の實際を見ても體操の教授といふと殆んど似合つた、同じ形式、同じ



5.52 9784

方法で子供も大人も、女子も男子も同じ様な状態におかれて身體練習が行はれてゐるのであるが、研究の不充分學究的態度の不足を事實として示すものであると考へざるを得ない。

これらの體操科の教授を近來靜かな心・落附いた眼で見つめたとき強き信念として生れた事は「改めなければならぬ」、「進歩させたい」、と言ふ心から稿を起したのであるが、到底意を充たす迄に行かぬけれども、現在實施の材料を明かにし、教授の要諦を示した、のみで充分でないことは心苦しいのである。殊に紙數に限られた爲教授に關する事項を思ふやうに發表出來なかつたことを遺憾とする。

教授の實際に關する寫眞中茨城縣北相馬郡山王村小學校の農村に於ける小學校の實狀を示すことが出來、尙東京日本橋有馬小學校の都市の徹底した體操科の實際を示すことが出來たのは著者の満足とするところである。

昭和四年十二月

上駒込の寓居にて

著 者 識